

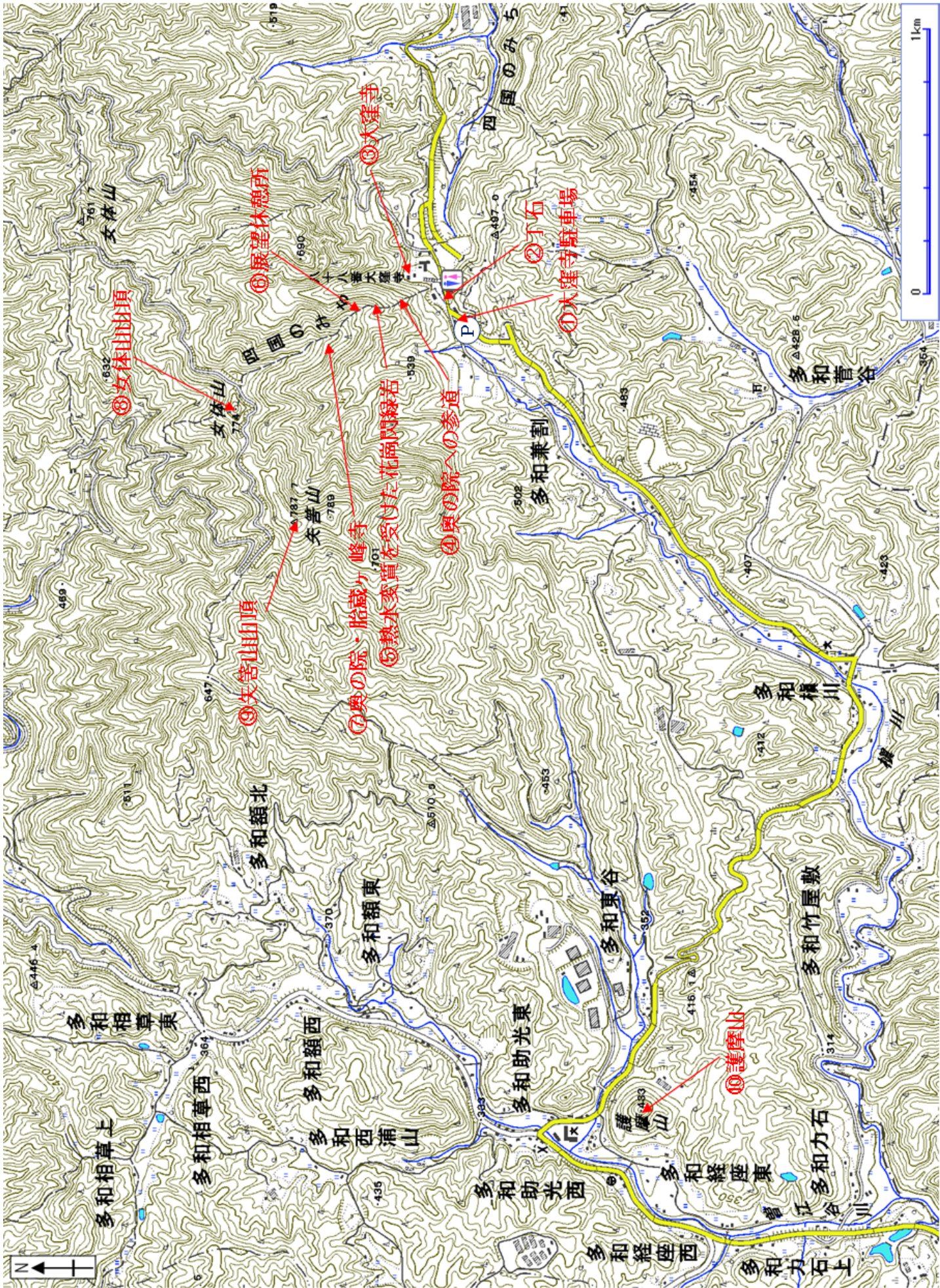


図3 女体山と護摩山周辺案内図（基図は国土地理院 25000「徳島」を使用）



1. 讃岐山脈北側の吉野川流域にある大窪寺

四国遍路の結願の寺、大窪寺は、女体山（標高：774m）と讃岐山脈に挟まれた谷部（窪地）にあります。本堂は女体山を削ってできた谷の出口にあり、二重の意味で窪地に建っています。本堂の東側の高まりは分水嶺になって、東側の谷は徳島県阿波市に流下する日開谷川の上流部に、西側の谷は徳島県美馬市に流下する曾江谷川の上流部となっています。大窪寺の北側の矢筈山（やはずやま）山系南斜面は吉野川の流域に当たり、矢筈山（標高：789m）－女体山－東女体山の尾根が分水嶺となっています。このような地形配置は、吉野川の北岸に分布する土柱層に含まれる花崗岩礫から、少なくとも約 100 万年前から続いています¹⁾。つまり、曾江谷川と日開谷川は讃岐山脈が隆起する前から讃岐山脈を越えて南へ流下しており、讃岐山脈が隆起後もその流路を保っている先行河川です。大窪寺は香川県では特異な吉野川流域に立地しています。

2. 元祖火山岩頸の護摩山と流紋岩貫入に伴う熱水変質

大窪寺のある東西方向の谷より北側の矢筈山系には、領家花崗岩類に属する花崗閃緑岩が分布しています（図1）。女体山のある矢筈山系の花崗閃緑岩は、熱水変質を受けて脆弱になっているところがあります。特に東西方向の谷や鞍部に沿って、数条の熱水変質帯が形成されています。この熱水変質帯に約 1400 万年前に流紋岩が貫入し火山岩頸を形成しています。護摩山はその代表です。矢筈山系の北側の長尾断層に沿って流紋岩が貫入していることから、矢筈山系の花崗岩中に認められる熱水変質帯は流紋岩の貫入に伴って形成されたと推定され、矢筈山系の地下には流紋岩（ゆっくり冷却したら深成岩の花崗岩）が伏在している可能性が高いと思われます（図2）。讃岐山脈の北側で、讃岐山脈に匹敵する 800 m級の山地があるのはここだけです。矢筈山系は硬い花崗岩が差別侵食によって残ったのではなく、地下に貫入して流紋岩（花崗岩）マグマの隆起によって形成された可能性があります。

大窪寺の谷から南側には標高 400～500mの丘陵が東西方向に連続していますが、その南には和泉層群から構成されている讃岐山脈がそびえ立っています。この直線的な地形境界には田中断層が東西方向に通っています。

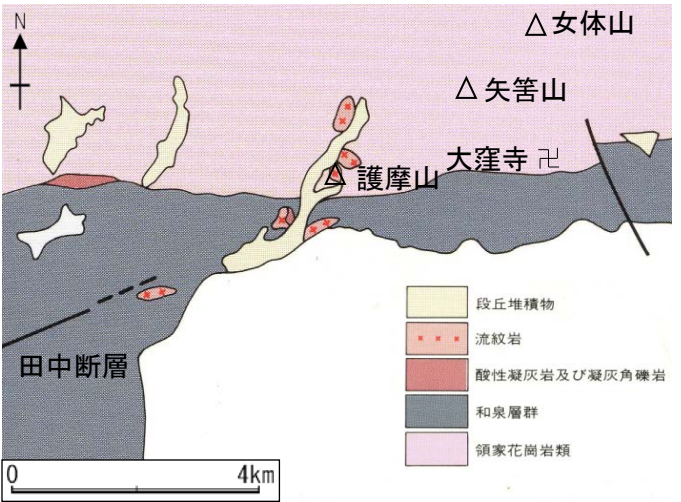


図1 女体山・護摩山周辺地質図²⁾

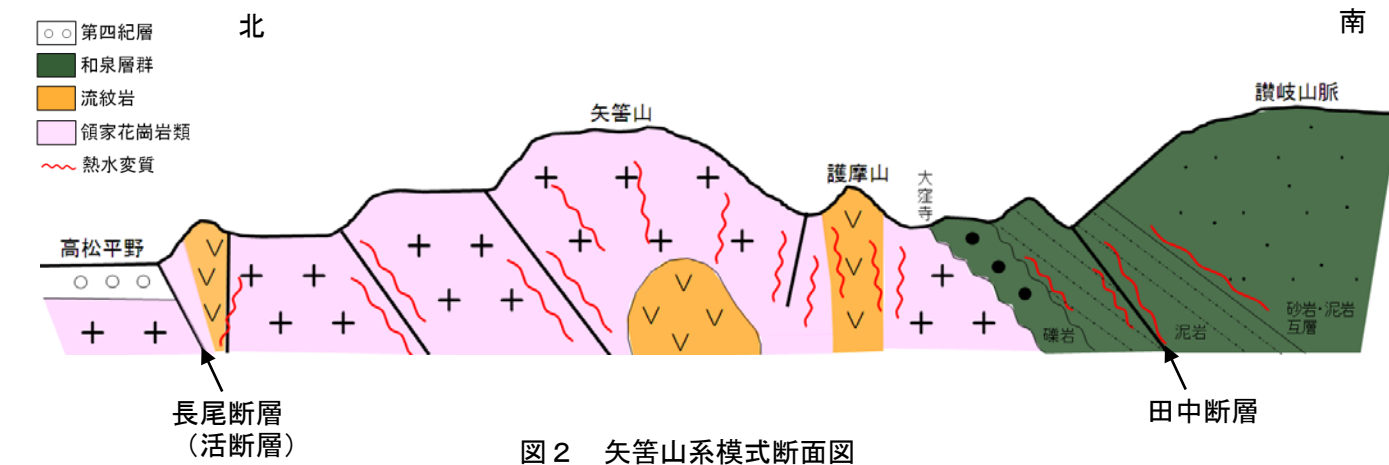


図2 矢筈山系模式断面図

参考文献：

- 1) 長谷川修一：讃岐山脈南麓における中央構造線沿いの大規模岩盤すべりと第四紀断層運動。地質学論集, 40, 143—170, 1992.
- 2) 長谷川修一, 斉藤 実：讃岐平野の生いたちー第一瀬戸内累層群以降を中心にー, アーバンクボタNo. 28, pp. 52-59, 1989.
- 3) さぬき市ホームページ：http://www.city.sanuki.kagawa.jp/education/culture/culturalasset/index.html
- 4) 香川県環境森林部「香川の環境」ホームページ：http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/shizen/guidemap/kinebutu/20.htm

* この地図は国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平 24 四複、第 60 号）許可なく複製を禁ずる。

3. 女体山のジオサイト

①大窪寺第一駐車場

駐車場の北にある道路切土斜面には、熱水変質を受けて軟質になった花崗閃緑岩が露出しています。花崗閃緑岩中の角閃石と黒雲母は緑泥石に、長石はセリサイト（白雲母）になって粘土化しています。また赤鉄鉱による赤色のシミ、褐鉄鉱による褐色のシミが広がっています。



②丁石

前山ダムから大窪寺に至る旧遍路道沿いには、70丁の丁石があり、1丁ごとに結願へ近づく道しるべとなっています。ほとんどの丁石は和泉砂岩製ですが、最後の1丁の地蔵尊だけは花崗岩製です。第1駐車場南にある3丁石の説明版によると、1丁から6丁までの丁石は、宝暦12年（1762年）に土佐の井筒屋利平治が寄進しました。



③大窪寺

大窪寺の本堂は、土石流の危険がある谷の出口に建立されています。その背後には、女体山から続く花崗岩の岩盤斜面がそびえ立っています。



④奥の院への参道

道の駅ながおから女体山を越えて大窪寺まで四国のみちが設けられています。四国のみちの大窪寺から奥の院の区間には、参道に利用した花崗岩製の石段が残っている所があります。



⑤熱水変質を受けた花崗閃緑岩

四国のみち沿いの花崗閃緑岩は、熱水変質を受けて脆弱になっている部分が多く見うけられます。矢筈山系の花崗閃緑岩は至るところで熱水変質を受けています（写真の左下）。



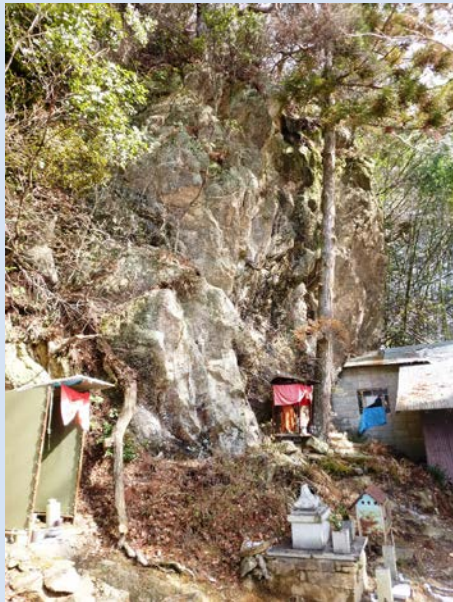
⑥展望休憩所

展望休憩所には、女体山の自然に関する説明板があります。標高590mの尾根部にある展望所からは、大露頭のある東西方向の谷とその南にそびえる讃岐山脈の眺望が開けています。



⑦奥の院・胎蔵ヶ峰寺

大窪寺奥の院の信仰遺跡は、さぬき市の史跡に指定されています³⁾。ここには、花崗閃緑岩の巨岩のたもとにお堂が建てられ、背後の岩壁に梵字が刻まれています。この岩壁は、奥の院ができる前に発生した岩盤崩壊の跡です。崖の下に熱水変質による⑤地点のような窪みがあるのかも知れません。



⑧女体山山頂

女体山山頂は、花崗閃緑岩の岩峰で、豊島石製のほこらなどがある神聖な場所です。山頂から高松平野の絶景が広がっています。



⑨矢筈山山頂

矢筈山山頂は女体山と同じく花崗閃緑岩の岩峰です。讃岐山脈とその北側の低い丘陵との地形境界に沿って、田中断層が走っています。田中断層に沿って流紋岩の貫入岩体（火山岩頸）が点在しています。



4. 護摩山のジオサイト

⑩護摩山

護摩山は、約1400万年前の流紋岩が花崗岩に貫入した火山岩頸で、昭和51年に香川県自然記念物に指定された⁴⁾元祖火山岩頸です。中央部の突き出した山頂（タイトルの写真）は最後に貫入した板状節理の発達した硬質の流紋岩からなり、周辺の緩斜面は角礫状に破碎され熱水変質を受けて軟らかくなった流紋岩からなります。角礫状の流紋岩ができた後に板状流紋岩が貫入したと推定されます。中心部の板状流紋岩の岩塔を巡るように、四国霊場にちなんだ石仏が配置されています。風化を受けた和泉砂岩製の石仏は年代を感じさせます。



板状節理の発達した流紋岩露頭



角礫状に破碎された流紋岩質火道角礫岩